

## 序

昭和8年3月3日三陸地方沖合に發生せる地震は我國東半部に亘りて人體に感覺を與へたる程度の大地震なりしに拘らず最も震央に近き地方においても一般家屋に損傷を與へざりしは幸なりき。然れども地震發生後約半時間を経て同地方沿岸に來襲せる津浪は海水を陸上に奔溢せしめ數多の人命財産を奪ひ去れるは誠に遺憾に堪へざるものとす。

三陸地方沿岸は歴史上十數回津浪の來襲をうけ多大の災害を蒙りたる所にして前回明治29年の津浪は特に著しく其災害の著大なりしは今日なほ世人の記憶に新なるものあらん。前回の津浪被害と今回發生せる津浪被害とを比較するに所により前回の浪丈稍々優りたる所無きには非ざれども被害分布より之を察すれば兩回とも同一地域の災害を蒙れる所該地方に亘りて頗る多し。勿論前回の危に懲りて其後家屋の移轉を敢行せる部落の二三は存在するも津浪の陸上に奔溢せる有様は兩回とも其軌を一にし以て津浪の來襲は同一地域に繰返すてふ感を深からしむるものなり。

津浪の原因は恐らく海底における地盤變動に歸せしめ得べく従つて斯かる自然現象を根本的に阻止する事の不可能なるは明なれども津浪の傳播して海岸に到達し海水を陸上に奔溢せしむる結果發生する災害は人力を以て回避するに強ち不可能と爲すべきには非ざるなり。之は全く津浪本體の研究に立脚して對策を講ずべきものにして津浪現象を正確に認むる事より出發すべきは論を俟たざる所なり。

素より大規模なる津浪は數十年1回程度の割合を以て發生する稀有現象なれば其本體を正しく認めんとするに當りては今回の如き機會を逸する事なく津浪に關係して發生せる諸現象を具に觀察し其中より事實を摘出するを第1目的として努力すべきは當然の事にして地震研究所に於て第1に着手せる事も全く此の點なりとす。而して其等事實の蒐集と其後行はれたる諸研究とを以て津浪の本體に關し多く認識を深め得たるは全く各所員の協調的努力の賜物にして以下

其概要について述べんとす。

津浪來襲直後地震研究所は數名の所員を被害地に派遣せし一方關係諸官衙に乞ふて檢潮儀記録複寫の送付方を懇請し又該地方各役場小學校等に囑して津浪來襲に遭遇せる人々の報告を能ふ限り蒐集せり。此等は何れも資料中に輯録せるものにして此機會に際し好意を寄せられたる關係者各位に厚く謝意を表するものなり。

三陸沿岸地方に出張せる各所員の行へる主なる調査は海岸に印せられたる最高水位浸水區域家屋の被害狀況及び地形と災害との關係等にして猶ほ特種研究としては災害の著しかりし數個所の町村に就き測量器械を使用して水位の高低を測定せし事及び二三の港灣に就て其の灣内に生ずる二次振動及び表面波の消長を觀測せる事にして此等の研究は津浪の本體を闡明する上に極めて重要な効果を齎せるものなり。

以上の多くは何れも現地における津浪諸現象の事實調査なれどもなほ進んで津浪現象を深く追究するに於ては之を實驗的に再現研究する事の必要を感じ本所内實驗室においては二三の模型實驗を遂行せるなり。即震央における津浪の發生狀況或は港灣海底の狀態に應じ津浪の變化進行する狀況を再現せしめ之を觀察測定せり。此等の實驗は要するに自然に存する津浪と比較研究する事或は理論上得たる結果と照合して多く價值付けらるゝ事は勿論なりとす。

本冊子は以上の諸研究及び調査報告を輯録し地震研究所彙報別冊第1號として刊行するに決定せるものなり。其の内容は分ちて2篇とし第1篇には研究論文、第2篇には資料及び現地において得たる調査報告を載す。なほ津浪發生より今日に至る迄僅1ケ年の日子を經過せる許にて諸研究の中には漸く其緒に就きたる程度のものも無きに非ざれども此機會を以て津浪に關する一切の研究調査を一括して發表するも全く無意義に非ずと信ずるまゝ敢へて上梓する次第なり。なほ地震研究所に於ける津浪研究は之を以て打切りたるものに非ず將來隨時發表さるゝ津浪研究論文は今後發行の彙報中に載録さる豫定なり。

本冊子中輯録せる資料調査及び諸研究に關しては本學本部及び文部省より臨時費の援助を得て着手遂行せしものなる事又本冊子刊行に當りては財團法人服部報公會の多大なる補助を蒙りたるものに就き茲に甚大なる謝意を表するものなり。

昭和9年3月

東京帝國大學地震研究所長